



吉敷の木
「もみじ」



吉敷の花木
「うめ」



吉敷の草花
「マリーゴールド」



吉敷の草花
「サルビア」

ふるさとだよ

よしき

FURUSATO DAYORI YOSHIKI

2018

3

No. 744



池田穂乃佳さんの標語が新しい懸垂幕に!
地区人権学習推進大会



「お父さん 焼き芋おいしいよ～」
木でいろいろ作ろう&昆虫観察&焼き芋を食べよう

CONTENTS

インフォメーション..... 2

【シリーズ歴史⑥】

幕末と吉敷の青年たち(その一)..... 3

【トピックス】

カメラを持って出かけてみませんか
「よしきフォトコンテスト」初開催!!..... 4

【シリーズ地名⑥】

町名の由来(その一)..... 5

今月の吉敷人..... 5

レポート..... 6

【シリーズ偉人②】

文部・地方行政の功労者
服部一三の生涯(その二)..... 7

【吉敷の福祉・健康】

山びこの会..... 7

【よしきで輝く】

大正琴良城八千代会..... 8

かけはし..... 8

YOSHIKI
DATA

【人口】14,785(前月比 -12) 【世帯数】6,160(前月比 -8)

平成30年2月1日現在



イ・ン・フ・ォ・メ・ー・バ・ン

母子相談

お子様の身体測定や、育児・離乳食に関する事など、保健師と栄養士が相談をお受けします。お友達づくりを兼ねて、気軽にお越しください。

【とき】3月7日(水) 13時30分～14時30分
(受付時間)

【場所】地域交流センター和室

【申込】不要

【準備】母子健康手帳

【主催・問い合わせ】市保健センター

☎083-921-2666

春のおはなし会スペシャル

毎月第2土曜日に、地域交流センター図書室で読み聞かせをしている「絵本のひろば」の皆さんによる、絵本の朗読会を開催します。無料で綿菓子やポップコーンも食べられますよ！

【とき】3月10日(土) 10時30分～11時30分

【場所】地域交流センター講堂

【申込】不要

【主催・問い合わせ】地域交流センター

☎083-922-3915



昨年の様子

ブックスタート体験会

絵本に関心を持ち始める時期の乳児とその保護者を対象に、絵本を無料で贈呈する「ブックスタート体験会」を開催します。

【とき】3月12日(月) 10時～12時

【場所】地域交流センター和室

【申込】不要

【問い合わせ】市立中央図書館

☎083-901-1040



環境づくり講習会

「外来種問題について」

吉敷地域に生息する主な外来種とその影響や、最近侵入がとりざたされる「ヒアリ」の生態や対策について学んでいきます。

【とき】3月15日(木) 13時30分～14時30分

【場所】地域交流センター講堂

【講師】市環境政策課職員

【申込】不要

【問い合わせ】環境づくり推進協議会

☎083-922-3344

出雲大社前の市道交差点の区画線が一部変更になります

3月上旬から、出雲大社前の木崎佐畑2号線と、中村木崎線の交差点において、区画線が一部変更になります。通行には、十分ご注意ください。



放課後児童クラブもみじ学級支援員・補助員募集

【支援員】時給980円／放課後児童支援員の資格をお持ちの方
【補助員】時給880円／資格・免許は必要ありません。

【募集人員】いずれも若干名

【勤務場所】良城小学校グラウンド西側

【勤務期間】4月2日(月)～翌年3月30日(金)(更新あり)

【勤務時間】月曜日～土曜日(祝日除く) 7時45分～18時15分の間で5.5時間程度

【応募方法】3月19日(月)までに市販の履歴書をご持参ください。

【申込・問い合わせ】地区社会福祉協議会

☎083-922-3344

学校施設定期利用団体募集

平成30年4月1日から平成31年3月31日までの1年間を通して、学校施設を定期的に利用される団体を募集します。

【対象施設】

- ・良城小学校体育館
- ・良城小学校グラウンド
- ・鴻南中学校体育館
- ・鴻南中学校の夜間照明を使用してのグラウンド(ナイター)

【応募資格(要約)】

- ・吉敷地域内に在住する者が10名以上で構成されたスポーツ団体であること(鴻南中学校は大蔵地域在住者も可)。
- ・地域で開催される行事に積極的に協力できること。

※学校行事やその他地域行事等の都合により使用できない日があります。

【申込書類】地域交流センターに設置

【申込方法】所定の申込書に記入し、団体の構成員名簿等を添付のうえ、地域交流センターへ提出してください。

【申込期間】

3月1日(木)～3月9日(金)

【利用調整会議】各団体から必ず1名以上の出席をお願いします。

【とき】3月15日(木) 19時

・場所 地域交流センター視聴覚室

【申込・問い合わせ】地域交流センター

☎083-922-3915

「吉敷さんぽ」を片手に ふるさとの歴史を学ぼう

郷土の歴史学習会第3回目は、吉敷の郷校「憲章館」の人々について学びます。

徳川幕府の文教政策に迎合した萩本藩の「明倫館」に対し、郷校「憲章館」が、いかに自由闊達なすばらしい学風を堅持していたか、第5代学頭の大田報介の言葉から学んでいきます。

【とき】3月27日(火)10時～11時30分

【場所】地域交流センター 講座室

【講師】平和生氏(赤田)

【対象】吉敷在住の方

【申込締切】3月26日(月)

【申込・問い合わせ】文化振興協議会

☎083-922-3344

吉敷子ども英語クラブ

長身のアメリカ人ブライアン先生と楽しく英語に触れませんか。毎月違うテーマで物の名前や会話の基礎が学べます。

【とき】月曜日(月3回)

【場所】地域交流センター 講座室

【対象】小学1～6年生

【定員】40名

【会費】月2,700円(プリント代込み)

【申込・問い合わせ】友森美奈子(下東)

☎080-1911-0870

今月のぶつくん(移動図書館)

【とき】3月9日(金)、23日(金)

15時20分～16時

【場所】地域交流センター 駐車場

3月の予定

2日(金)	シニア交通安全教室
7日(水)	母子相談
9日(金)	子育て講座(魚食)
10日(土)	「吉敷さんぽ」を片手にふるさとの歴史を学ぼう 春のおはなし会スペシャル
11日(日)	多世代交流グラウンドゴルフ大会
12日(月)	ブックスタート体験会
15日(木)	ふれあい給食 環境づくり講習会
17日(土)	防災講座
18日(日)	吉敷ベタンク交流大会 凌雲寺跡現地説明会 子育て支援講演会
21日(水・祝)	中尾の文化財さんぽ
27日(火)	「吉敷さんぽ」を片手にふるさとの歴史を学ぼう

4月の予定

15日(日)	第47回吉敷地区大運動会
19日(木)	ふれあい給食
22日(日)	市議会議員選挙



「幕末と吉敷の 青年たち(その一)」

今年、明治維新150周年を迎えますが、吉敷においても吉敷毛利家の郷校「憲章館」出身の青年たちが明治維新に向けて活躍しています。その活躍を二回シリーズで紹介いたします。

宣徳隊の盛衰

幕末、幕府の対外和親の態度に対して、国論は、開国が攘夷かで揺れ動いていた。長州藩は、尊王攘夷を掲げ京都で朝廷の警護を行っていたが、文久三年(一八六三)、過激な考えや行動が敬遠され、京都から追放されることになった。

この時、京都の状況を観察していた服部哲二郎(後の名和道一)は、吉敷に帰り、長州藩の危機を訴え、青年同志に呼びかけて一隊を組織し、宣徳隊と名づけた。

同志は約三〇名、屯所を木崎の児玉斎の宅に置き、訓練の傍ら募金を呼びかけたり、隊員を募った。

元治元年(一八六四)、長州藩は先の京都追放の弁明のために使者を送ることになり、吉敷毛利家の領主元潔が任命されると、宣徳隊はその護衛を命じられた。

しかし、翌年派遣は中止となり、宣

徳隊は二年足らずで解散した。

吉敷隊始末記

天下の状況が依然として揺れ動く中、長州藩の立場は好転せず、それどころか、幕府からはならまれ、朝廷からは退けられていた。

さらに、池田屋騒動で多くの藩士が暗殺されたことから、藩は、家老を指揮官に武力でもって京都に入ることになった。

この時、吉敷毛利の家中では、服部哲二郎が中心になり、元宣徳隊員やその他の有志でもって一隊を組織し、吉敷隊と名付けた。

参加隊員二七名、久坂玄瑞の遊撃隊の別働隊として進軍した。いわゆる「蛤御門の変」である。

長州藩は大敗して、京都を脱出することになり、吉敷隊も遊撃隊に従って、海路三田尻の港に着き、吉敷に帰ってきた。

この敗戦で、藩政府内では、正義派に代わり俗論派が勢力を持ち藩の役職を占めることとなり、吉敷隊は、解散を命じられた。

(三坂圭治編「吉敷村史」ほか)



カメラを持って出かけてみませんか 「よしきフォトコンテスト」初開催!!

近年、吉敷地域では、宅地開発などで人口は大幅に増加しています。一方で、隣近所の付き合いが希薄化しているため、人と人がふれあい、交流する機会がより一層求められています。

こうしたことから、春の大運動会や夏まつり、秋のふるさとまつりなど、年間を通して、様々なイベントや行事が開催され、交流が図られています。

吉敷には交流の場がたくさん ふれあいを写真であとおい

地域づくり協議会では、こうした様々な交流の場を活用して、平成30年度から新たに「フォトコンテスト」を開催することとしました。

フォトコンテストのテーマは、「みんなであつこう 笑顔あふれるふれあいのまち 吉敷」です。

もっと広めたい吉敷の魅力!

新たな交流のきっかけとして

写真を自分で撮ることで、吉敷の良さを改めて実感したり、誰かが撮った写真を見ることで、新たな発見があるかもしれません。

フォトコンテストをきっかけに、より多くの方がイベントや行事に参加して、ふれあいや交流を深め、吉敷の魅力をもっと知ってもらえることを期待しています。

ふれあいのまち吉敷で

交流する人々の写真大募集

募集する作品は、「吉敷の美しい四季の風景とその中でふれあう人々の写真」または「吉敷で開催される様々なイベントや行事で交流する人々の写真」です。

あなたが撮った写真で、吉敷の魅力を伝えてみませんか。



「こども相撲」でのふれあい

初心者だって大丈夫!

写真教室も開催します

コンテストの写真なんて、敷居が高いと思っていませんか。コンパクトカメラやスマートフォンなどでも素敵な写真が撮れます。

募集期間中に、地域でのイベントや行事に合わせて、初心者向けの写真教室を開催する予定です。内容、日程等の詳細は、地域広報紙「ふるさとだよ」やウェブサイトなどで随時お知らせします。

応募作品を活用した

吉敷カレンダーの作製へ

入賞作品は、表彰するとともに、イベントや行事等で展示します。また、応募作品を活用して、吉敷のカレンダーを作製し、より多くの方々に吉敷の魅力を発信します。

最優秀賞 1点	2万円分の 商品券
優秀賞 2点	1万円分の 商品券
佳作 若干	3千円分の 商品券
特別賞	良城商工 振興会長賞

地域住民を中心とした実行委員会 委員長に県立大倉田准教授を迎えて

地域住民を中心に、良城商工振興会からも多くの参加を得た実行委員会が立ち上がり、委員長には、県立大准教授の倉田研治さんを迎えました。

「写真表現を『ミニケースション』の一つととらえて、地域の皆さんで共有できることが大切な目的になっています。あつ、いな、という瞬間をとらえてぜひ出品してみてください。たくさんのご応募お待ちしております。」と意気込みを語ってくれました。



倉田 研治さん(佐畑)

【応募期間】

・4月2日(月)～11月22日(木)

【応募規定】

- ・どなたでも応募できます。
- ・カラープリントに判で縦横自由。
- ・撮影場所が吉敷で、自作・未発表のもの。平成28年12月から平成30年11月までの間に撮影した写真に限る。
- ・意図的に合成・加筆・削除した写真や組み写真台紙貼り等の写真は不可。
- ・応募点数は一人12作品までとし、作品は返却しません。

【応募方法】

- ・応募票(コピー可)に、必要事項を記入し、作品の裏面に貼り付けて郵送または持参してください。応募票は地域交流センターに設置しています。
- ・Eメールの場合は、応募票をウェブサイトからダウンロードし、必要事項を入力の上、作品データと応募票を送信してください。

- ※肖像権の侵害等が生じないよう、応募者の責任で確認してください。
- 【応募・問い合わせ】

よしきフォトコンテスト実行委員会

(地域づくり協議会内)

山口市吉敷佐畑二丁目4-1

☎0833-922-3344

✉yoshikibito@yoshikibito.com

http://www.yoshikibito.com/

※応募に関する詳細は、応募チラシやウェブサイトでご確認いただけます。

シリーズ 地名 6

「町名の由来(その一)」

地名は、もともと地所に住む人々が日常生活の必要からつけられたものである。そこで、その要素は、地形、環境、信仰、あるいは開拓、開墾などの過程を示すものが多い。

詳しい記録が無いので、想像の域を出ないが、一般的な伝承で町名(部落名)の起源をさぐってみたい。

畑(ハタ)は昔、焼畑農業が行われるようになって、開拓されたことから名づけられたものと思われる。

「畑」は、火に田と書くように、草木の生えている土地に火をつけて焼き、その跡地を耕して畑にしたものである。土地が弱ってくる、他に移動してきたが、徐々に定住するようになった。



赤田を臨んで

赤田(アカタ)は、文字通り「赤みを帯びた田」、「赤い土質の田」から出たものであろう。以前、井戸水が鉄気で味が悪かったと聞いたが、鉄分を含む赤土の影響かも知れない。

また、アクタ(悪田)が訛ったという説がある。昔、この付近は湿地帯であり、再々吉敷川が氾濫を起こしたからだとも考えられるが、明らかではない。

佐畑(サバタ)は、古い文書には、「左畑」と書いたものがあるとか。

これから考えると、サ・バタで、「吉敷川の左にある畑」とも言える。

また、サバ・タの考え方もあるそう。サバとは、「砂礫の土」を表わすとのことである。この論だと、西寺川、木崎川、吉敷川の流域に関わる土質を表わしたものかもしれない。

中村(ナカムラ)は、文字通り、「村の中央」を表わすと思われる。この地名は、県内でも多い地名で、多くは中心とか中央部を表わしている。吉敷も同じであろう。(高橋文雄著「良城小学校百年史」等より)

よしきびと 今月の吉敷人 No. 026

いずみ とも こ
泉 智子 さん (37)

トラストコンフォーティングブレイス



いつもの犬の散歩コースにしている赤田の吉敷川沿いにある、おしゃれな隠れ家風的美容室。この美容室の若きオーナーこそが泉さん。美容技術には強いこだわりを持ち、お客様にも思ったことはハッキリとアドバイス。この正直で裏表のない快活な人柄のせいか、彼女をよく知る人達は「ともちゃん」と親しみを込めて呼んでいます。

「楽しいコトは自分でつくる!」といった信念を持つ泉さんは、本業のかたわら、店舗一帯をお祭り広場にする「ワイワイまつり」や、2日間、店舗を古着屋にした「Trust de フリマ&コーディネート」等を開催。赤田神社に篠笛奏者で有名な佐藤和哉氏を招いたのも彼女。活動は地域を越え、山陽小野田市のソル・ポニエンテで開催した「スペシャルサンセットヨガ」には女優の松本莉緒さんも呼びました。

行動力満点! 天真爛漫な彼女の次なるアクションに目が離せません。(広報委員: 村上(孝))

昭和55年、山口市生まれ。実家は湯田にある「カットハウスいずみ」。赤田に店舗を構え8年目。世界のパワースポット巡りとヨガが大好き。

よしきびと 今月の吉敷人 No. 024

おお たに とし ゆき
大谷 俊幸 さん (45)

山口吉敷郵便局 局長



郵便局長として吉敷に来て7年が経ち、地域の皆さんに覚えてもらえたかと思えます。これからも吉敷地域に必要とされる郵便局でありたいと思います。皆様のお越しを心よりお待ちしております!

美祿市於福町出身。平川在住。妻、1女の3人暮らし。平川では消防団員。

よしきびと 今月の吉敷人 No. 025

ひ がき
桧垣 すみれ ちゃん (11ヵ月)

赤ちゃん



チャームポイントはクリクリの髪の毛☆立ッチができるようになり、その時のドヤ顔がたまりません♡可愛い仕草と笑顔に、毎日家族みんなが癒されます。これからも元気にすくすく育ってね。

健心さん、奈美さんの次女。長男、長女の3兄妹。上東在住。

レポート

校庭は昆虫王国 木工も体験

今年も焼き芋ホフツ！ホフツ！

1月20日（土）、良城小学校で「木でいろいろ作ろう＆昆虫観察＆焼き芋を食べよう」を開催しました。
木でいろいろ作ろうでは、学校林活用委員会の古木文仁会長（下東）がぶんぶんゴマや箸作りを教えてくださいました。



昆虫観察では、やまぐち昆虫楽会の角田正明さん（佐畑）が校庭で真冬の昆虫観察を開催。トックリバチは、触覚をモノサシがわりに巣を作るらしいですよ。
最後は、良城小おやじの会を中心に焼いた焼き芋をみんなでホフホフ食べて満腹になりましたよ！



コロコロ♪モミモミ♪もち丸め 寒いけど鬼さんは外へ☆

2月4日（日）、つどいの広場「楽楽楽」で、「ららののおもちつき」が開催されました。

みんなで一生懸命お餅をついて、小さい手のひらでコロコロ丸め、紫色や白色のお餅を作りました。きな粉やみたらしをつけて食べる出来たてのお餅にみんな満足顔でした。



前日が節分ともあって、「楽楽楽」にも鬼さんが登場。鬼さんがちよっと怖くて泣き出す子もいましたが、勇気を出して鬼は外！福は内！と豆まきの始まり。みんなの元気で鬼さんは寒い外に逃げていきました。今年も福がいっぱいだといいですね！



みんなちがってみんないい♡

2月10日（土）、「地区人権学習推進大会」を開催しました。地域交流センター定期利用団体のコーラスCOCOが2曲のコーラスで華やかにオーブニングを飾りました。

今年も良城小学校児童と鴻南中学校生徒から人権啓発作品を数多く出品していただき、代表の児童生徒たちが表彰されました。



最後に、金子みすゞ記念館館長の矢崎節夫氏が「みんなちがって、みんないい。くみすゞさんのうれしいまなざし」と題して貴重な特別講演をしてくださいました。なお、良城小学校の池田穂乃佳さんの標語が地域交流センター正面の懸垂幕に採用されました！



良城小学校児童 優秀賞受賞者

〈作文の部〉

山本 翔也 5年4組一同
河口 輝来

〈標語の部〉

池田 穂乃佳 上田 有紗
幸坂 奈苗 田中 達也
時元 菜々香 野嶋 彩貴

〈ポスターの部〉

杉津 妃南 高山 優己 中村 紘豊
山本 葵 渡邊 愛

鴻南中学校生徒 優秀賞受賞者

〈作文の部〉

別所 優衣 栗田 想良

〈標語の部〉

稲田 春菜 木村 茜音 木村 歩美
有馬 愛里菜 二神 晃大

〈ポスターの部〉

田中 利奈 谷川 優 森 未来
山野 里津



シリーズ 偉人 12

文部・地方行政の功労者 服部一三の生涯(その二)

明治二十四年から、服部一三はつらいちぞうは地方長官（知事）として手腕を発揮する。

先ず岩手県知事に任命された。時に四〇歳。赴任後の最大の難事は、明治二九年に青森・岩手・宮城の三県を襲った「三陸地震」による大津波、大水害後の整備復興に全力を注いだ。そのほか、県内の道路の改修に大いに努力するなど、在職七年余で目覚ましい実績を残した。

その後、広島県知事と長崎県知事を歴任し、明治三十三年に兵庫県知事となった。

兵庫県では、同県の多年の懸案であった神戸港の拡張並びに突堤築造の問題を解決し、次いで米穀検査所を設けて産米の品質改良に努めて価格の上昇を図った。また、工業試験場を設置して工業を奨励するとともに、県立工業学校を創立して、実業教育の普及、発達に尽力した。さらに、東京女子共立職業学校の創立にも大いに寄与したといわれる。

明治三十六年、現職のまま貴族院

議員に任じられ、大正三年には親任官待遇を受けるなど、知事としては破格の処遇を受けた。

大正五年、一七年の長きにわたった兵庫県知事を六五歳で依願退職した。以後も大正八年に万国議員商事会委員長としてベルギーへ出張、帰国後は、神戸市郊外に居を構え、国際連盟協会神戸支部長などを勤めた。

昭和四年、兵庫県西灘村の自宅で死去。享年七九歳。この日、政府から「旭日桐花大授賞」を授けられた。墓は佐畑の「長楽苑」にある。

服部は晩年、和歌をたしなみ、絵画を好み、特に浮世絵の鑑識に秀でた。また、吉敷の良城青年会特別会員として、応分の寄付を始め、大正八年にベルギーに出張した際には、諸国を巡歴した見聞記を機関誌「良城」に寄せている。

なお、服部は明治の文豪、小泉八雲（ラファディオ・ハーン）の来日・就職に一役買ったことでも知られている。

（吉敷赤田平和生 著）

吉敷の福祉・健康

WELFARE AND HEALTH

佐畑自治会で活動するふれあい・いきいきサロン「山びこの会」をご紹介します。

「山びこの会」

山びこの会は、平成14年に佐畑福寿会が母体となり設立されたサロンです。

会員は25名。平均年齢は81歳、90代が3名活躍されています。

お内裏さ〜まとお雛さま〜♪

取材に伺った日は、ひな祭り間近。素敵な衣装を身にまとったお内裏様とお雛様が登場。皆さんの手には、色とりどりの扇。「顔をもう少し上にあげて。」と踊りの



お師匠さんであり着物を準備された前田絹江さんの指示のもと、記念撮影しました。ステキですね♥

みんなで盛り上がっていますよ

月1回の活動日は、ゲームや踊りの練習などをします。ゲームは手作りで準備されているそうですよ。年に5回ほど、午前中にお食事会、午後はみんなで交流と、1日楽しめます。

男性と女性の仲もとてもよくアットホームなサロンです。女性が踊りの練習を始めると、男性がサッと音楽を流し、やさしい眼差しで見守る…イイネ。



【代表者】中川 哲夫(佐畑)

【問い合わせ】☎083-924-6027(中川宅)

【開催日】第1水曜日

【会場】佐畑ふれあいセンター

大正琴良城八千代会

DATA

【活動日】 第2、第4火曜日 9時～12時

【活動場所】 地域交流センター 会議室

【会員数】 5名



誰でも簡単に音が出せます

地域交流センター登録団体等を紹介するコーナー「よきで輝く」。
琴の取材と違って練習をのぞいてみると、「ま〜わる〜まわる〜うよ」と中島みゆきの「時代」が演奏されている。続いて、山口百恵の「プレイバック1962」！着物を着た女性が爪で弾いているというイメージしかなかった琴の世界。今回は大正琴良城八千代会を紹介する。

大正琴は、木製の胴に金属の弦と簡単な鍵盤が備わった楽器だ。和琴というより、ギターに近く、鍵盤を押しながらピックで弦を弾き音を出す。程よい電子音と琴独特の音のミックスが美しい。「大正元年に發明された、れつきとした日本の楽器なんですよ。今は様々な流派もあるんです。」とは指導者の吉末智津子さん。元々ピアノの講師であったが、保護者に勧められて大正琴を始めた。



素敵な音色を一緒に楽しみませんか！

良城八千代会は、約30年前に当時の婦人会活動の一環として始まった。「婦人会の方も多く魅力的で、それで大正琴を始めました。」とは石田喜代子さん。「弦楽器は難しいけど、大正琴は簡単に弾けるのが魅力ですね。」とは、同じく婦人会活動をきっかけに大正琴を始めた熊谷カズ子さんだ。

良城八千代会では、年に1回琴城流山口支部演奏会で普段の成果を発表する。最近では、地域の方が小学生に勉強を教えるYKB会（吉敷交流勉強会）でも演奏を披露した。「小学生を前に手も震えるぐらい緊張していました（笑）」とは代表の岡崎美智子さん。

大正琴は、頼めば借りることもできるとのこと。ぜひ一度、この不思議な琴に触れてみてはいかがだろうか。

「人生は挑戦」

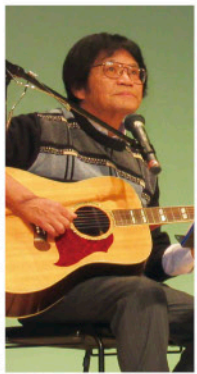
幼少期、横山大観の絵画に衝撃を受ける。いつか描いてみたいと夢みていたが、中学で生活が荒れ、いわゆる不良になるも、新任の英語教師と出会い、早期に親不孝と知る。

高校卒業間際、映画館の看板を見て就職から一転、美術の先生を目指す。勉強の末、芸術学部に入り、絵画・陶芸・彫刻を学ぶも、バンド活動や麻雀、酒に溺れる。結局、教員採用試験にはことごとく失敗し、自己嫌悪に陥る。

卒業後3ヶ月無職の末、山口に帰郷。看板業の修業に打ち込み起業。それから32年、還暦を迎える。筆一本の時代から、パソコン時代の到来に廃業を考えるも、幸い後継者に恵まれた。

3年前、中学の同級生と再会。ボケ防止のためと、音楽を楽しみながら作詞作曲を再開。昨年、その同級生とともに大舞台でライブができたことは生涯忘れない。

現在63歳、ここから新たな挑戦!!



広報委員 田中公吉

市民会館大ホールにて

【発行・編集】

吉敷地区広報委員会（〒753-0816 山口市吉敷佐畑一丁目4番1号）

☎083-922-3344 吉敷地区地域づくり協議会

☎083-922-0668 吉敷地域交流センター（行政窓口担当）

☎083-922-3915 吉敷地域交流センター（地域担当）

吉敷地区地域づくり協議会 ウェブサイト

<http://www.yoshikibito.com/>

吉敷地区地域づくり協議会

検索